

群馬県立前橋高等学校 学校評価一覧表①

(令和3年度版)

※( )は関連したアンケート項目に対する評価

No. 1

(様式1)

羅 針 盤			方 策		第1回点検・評価			第2回点検・評価										
評価対象	評価項目	具体的数値項目	自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策										
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は90%以上である。	A	A	・学習活動及び部活動・生徒会活動等を充実し、生徒の満足度を高める。	A	A	満足している割合が90%を超えている。今後も充実した教育活動を学校全体で進めたい。										
		② 「探究基礎」(1年)、「科学探究Ⅰ」「探究総合」(2年)、「科学探究Ⅱ」(3年)における活動を通じて自らテーマを見つけ、解決していく探究力が身についたと感じる生徒が80%以上である。			・課題設定や実証的な情報収集など、探究活動のスキル指導の充実を図る。			1年では改訂されよりわかりやすくなった「課題メソッド2nd Edition」を活用しながら探究活動を進めることができた。2年でも昨年の反省を生かし自らの進路に即したテーマ設定を行い活動を進めることができた。										
		③ 「イノベータ講演会」が探究活動の充実や活動意欲の向上に役立っていると感じる生徒が80%以上である。			・年に2回(7月、10月)、外部講師を招いた「イノベータ講演会」を開催し、意欲の向上を図る。			昨年度の反省を生かして作成した年間計画に基づき探究活動をおこなっている。実証的な研究内容になるよう共通理解をもって指導に当たっている。										
		④ Oxbridge研修やその報告会およびその他のグローバル教育に関する活動を通じて、グローバル社会での生き方や異文化に対する理解が進んだ生徒が80%以上である。(1・2年のみ)			・Oxbridge研修参加者などグローバル教育活動の体験をさまざまな機会に共有させるよう努める。国際交流や国内・校内等での研修参加を促すよう努める。			1年対象の第1回のイノベータ講演会を行った。実施時期、講演内容ともに適切であり、生徒の満足度も高かった。										
II 生徒の意欲的な学習活動について、適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	① 55分となった授業が工夫されており、授業に80%以上の生徒が満足している。	A	A	・ICTの活用やALの導入など、授業がより充実した双方向的な内容となるよう改善を図る。また、生徒の進路希望や適性に応じたクラス編成や授業展開を行う。	A	A	学校評価アンケートでは目標を達成している。年間2回の授業アンケートも、職員個々にフィードバックされているので、今後も授業改善を学校として進めたい。										
		② 英語や数学などの教科で行っている少人数授業や習熟度別授業に90%以上の生徒が満足している。			・クラス分けの方法や時期を工夫する。 ・小集団の特性に合った授業内容・指導方法で授業を行う。			保護者、生徒ともに満足している割合が90%程度に達している。授業アンケートも参考にさらに改善を図る。										
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	① 生徒自ら考え、発表するなど、主体的な活動を行う生徒が80%以上である。			・発問内容・方法の工夫により学習意欲の向上とともに、協働的な学びを進める。 ・生徒が発表する場を意識的に増やす。			A	A	・学年及び教科で計画的に研究授業、授業研究を実施する。	A	A	学年内の学力差が大きくなっていることから、これまで以上に有効に活用することが求められると考えている。					
		② 生徒が主体的に授業に取り組めるような授業改善のための研修会を各学年で年に2回以上と教科でも実施している。			・「土曜AL」の取組を確実に実施し、担任との連携を図りながら趣旨を理解させ、主体的な学習に向かわせる行動を促す。					生徒、保護者ともに70%程度。例年同じくらいの評価であるため、授業者への呼びかけが必要。								
		③ 「土曜AL」の活動に参加し、主体的な学習に取り組もうとした生徒が70%以上である。(1・2年のみ)			・AL型授業、外部英語検定(GTEC、英検等)受験、ディベート活動等を推進し、学校全体でコミュニケーション能力を向上させる意識を持つ。					生徒の評価は高いが、その効果についてはどこかで分析・評価する必要がある。								
		④ 英語等によるコミュニケーション能力が向上していると感じる生徒が80%以上である。			・SS科目において教科横断学習や探究活動を行う。					職員研修や教科内での授業の実践例の共有等を行い改善する。								
	4 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	① 平均家庭学習時間を1・2年で3.0時間、3年で4.5時間以上確保して、予習と復習に努めている。			・オリエンテーション等で家庭学習の大切さの理解を徹底させ、授業と家庭学習が一体となった学習活動を展開する。			B	B	・各教科・科目の授業において探究のサイクルを回し、学習内容に対する興味・関心の高揚を図る。	B	B	第1回の結果から変化はない。来年度から始まる新課程を機に、学校全体で再度意識を向上させたい。					
		② 学校内での朝学習や放課後の自習室利用など、校内での主体的な学習に取り組む生徒が70%以上である。			・文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取組と上位進出を促す。					引き続き、生徒自身に英語等によるコミュニケーション能力を高めることの重要性を理解させ、そのうえで、様々な活動を進めていく。								
	III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。			① 学年会議・生徒指導部会議・教育相談係会議において、生徒に関する情報交換を月に2回以上行っている。			B	A	・練習計画の作成等に生徒の意見を積極的に取り入れたり、達成感を味わえる場面を設定したりする。	A	A	「新学習指導要領における授業評価」について職員研修を行った。次年度は学習評価の方法の変化をふまえて授業改善に取り組んでいく必要					
					② 学校全体で、挨拶運動や規律遵守に取り組んでいる。					・行事等の活動に対して、生徒自身の自主的・自発的な活動を促し、達成感や存在感が感じられるようにする。			ALTとのティームティーチングを活用しながら、より実践的な英語力の育成に努めていく必要がある。					
		6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。			① 遅刻をする生徒が、全校平均で1日あたり10名以下である。また、欠席率は1%以内(3年生は2%以内)である。					・学年や担任を通して家庭との連携を図りながら、自律的な生活習慣を導いていく。			B	B	・オリエンテーション等で家庭学習の大切さの理解を徹底させ、授業と家庭学習が一体となった学習活動を展開する。	B	B	学年間で多少の生徒の意識の差はあるが、概ね高い評価であった。今後は各教科の特性に応じて、「探究的な学び」の方法についてさらに研究を深めていく必要がある。
					② 学校全体で、挨拶運動や規律遵守に取り組んでいる。					・学校に軸足を置いた学習が受験勉強の基本であることを理解させるための仕掛けを工夫する。 ・蛟龍館自習室の利用を勧める。					1学期の段階では目標に合う学習時間を確保できている生徒の割合はそれほど多くない。学習時間調査などを行って確認・刺激をしていく。			
7 生徒が自主的に活発な活動をしていますか。			① 部活動に実人数で95%以上の生徒が加入している。また、関東大会以上に出場の部活動5つ以上を目指す。	・学年や特活部と連携し、生徒職員が一体となって、自主的・自律的精神に基づいた活気のある学校作りを行う。	B	B	・文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取組と上位進出を促す。			B					B			特に保護者から学習空間の提供を望む声は高い。冬期学習会等も安定的に運営された。コロナ禍により学習室の運営が難しい時期がある。
			② 部活動が生徒の主体性を生かし、メリハリのある活動の中で充実していると感じる生徒が90%以上である。	・文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取組と上位進出を促す。			緊急事態宣言下では、学習室の利用が休止となった。安定的に学習する場の提供ができず残念だ。											
7 生徒が自主的に活発な活動をしていますか。	③ 部活動に取り組む生徒のうち、文武両道を実践していると感じている生徒が70%以上である。	・文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取組と上位進出を促す。	A	A	・練習計画の作成等に生徒の意見を積極的に取り入れたり、達成感を味わえる場面を設定したりする。	B	B	教育相談係会議において各学年からの生徒情報やスクールカウンセラーとの情報交換により組織的な対応を行うことができた。										
		④ 定期戦及び優曇華をはじめとした学校行事の内容の充実を図り、自主的・主体的に取り組めた生徒が80%以上である。			・学校の部活動運営方針に則した活動により、生徒の学習時間を確保する。			毎朝の校門指導において、始業合図5分前登校を促し登校指導を行うことができた。										
		① 部活動に実人数で95%以上の生徒が加入している。また、関東大会以上に出場の部活動5つ以上を目指す。			・文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取組と上位進出を促す。			毎朝、各学年と連携し、挨拶運動を行うと共に遅刻防止指導を行うことができた。										
		② 部活動が生徒の主体性を生かし、メリハリのある活動の中で充実していると感じる生徒が90%以上である。			・文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取組と上位進出を促す。			新入生だけでなく2年生も対象とした部活動紹介を行うことで、部活動加入への意識を高める援助とした。										
7 生徒が自主的に活発な活動をしていますか。	③ 部活動に取り組む生徒のうち、文武両道を実践していると感じている生徒が70%以上である。	・文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取組と上位進出を促す。	A	A	・練習計画の作成等に生徒の意見を積極的に取り入れたり、達成感を味わえる場面を設定したりする。	B	B	後期は、関東大会が体育部4部、学芸部4部、全国大会が体育部4部、学芸部1部が出場した。実人数部活動加入率は90.1%であった。新年度の部活動紹介の実施方法や時期を検討す										
		④ 定期戦及び優曇華をはじめとした学校行事の内容の充実を図り、自主的・主体的に取り組めた生徒が80%以上である。			・文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取組と上位進出を促す。			分散登校で十分な活動ができない分、意思疎通を図ったり、自分たちなりの目標を設定して、モチベーションを維持出来るようにする。										
7 生徒が自主的に活発な活動をしていますか。	④ 定期戦及び優曇華をはじめとした学校行事の内容の充実を図り、自主的・主体的に取り組めた生徒が80%以上である。	・文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取組と上位進出を促す。	B	A	・学校の部活動運営方針に則した活動により、生徒の学習時間を確保する。	B	B	生徒アンケートでは88%、保護者アンケートでは89%の満足度であった。コロナ禍での部活動計画や活用について検討する。										
		④ 定期戦及び優曇華をはじめとした学校行事の内容の充実を図り、自主的・主体的に取り組めた生徒が80%以上である。			・文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取組と上位進出を促す。			目標を達成するために、学習時間を確保するだけでなく、生徒が学習意欲を高める働きかけを行っている。										
7 生徒が自主的に活発な活動をしていますか。	④ 定期戦及び優曇華をはじめとした学校行事の内容の充実を図り、自主的・主体的に取り組めた生徒が80%以上である。	・文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取組と上位進出を促す。	A	A	・行事等の活動に対して、生徒自身の自主的・自発的な活動を促し、達成感や存在感が感じられるようにする。	A	A	生徒アンケートでは77%の満足度であった。本校部活動運営方針の理解と実施を促進させる。										
		④ 定期戦及び優曇華をはじめとした学校行事の内容の充実を図り、自主的・主体的に取り組めた生徒が80%以上である。			・文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取組と上位進出を促す。			制限がある中での開催となった文化祭ではあったが、生徒たちの自主的・主体的活動によって各団体が柔軟な対応をすることができた。										

(様式1)

※ ( ) は関連したアンケート項目に対する評価

No. 2

羅 針 盤			方 策		第1回点検・評価		第2回点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
	8 生徒主体のいじめ防止活動に積極的に取り組んでいますか。	① 本校の「スマホ利用ルール」を理解し、それに従った生活ができている生徒が80%以上である。 ② 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていると考えている生徒が90%以上である。	・ ホームルームや学年集会、講話等の機会を捉え、指導を徹底する。 ・ 人権教育やいじめ防止への啓発活動に加え、いじめに関するアンケートを各学期に行い、実態把握から対応まで計画的・組織		B	B	生徒会本部役員主導の下、いじめ防止フォーラムの活動を各クラスで行う予定である。	B	B	「スマホ利用ルール」を理解している生徒は、80%であった。今後風紀委員会を通して自主的な取り組みを促す。
	9 読書指導が行われていますか。	① 学校図書館の貸出冊数が7,000冊を超えている。	・ 国語科をはじめ各教科と協力し、貸出冊数の増加を目指す。図書委員会の活動をより積極的なものとし、企画展やビブリオバトル等を通じて図書館利用を促す。 ・ 進路指導部が年度当初に3年間を見据えた指導計画の大枠を提示する。		A	A	いじめの認知が行えるよう、教職員に対して短時間であるが、朝会研修を行うことができた。	A	A	いじめ防止に関する班別協議活動を各HRで行うことができた。また、いじめに関する職員研修を行い、組織的な対応に向けた取り組みを
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 計画的な指導を行っていますか。	① 進路に関するLHRを各学年で年に10回以上実施し、80%以上の生徒が進路選択の参考になると認識している。	・ 進路指導部が年度当初に3年間を見据えた指導計画の大枠を提示する。		B	B	貸し出し数増加のための方策は図書委員会を中心に実施しているが、学校外の活動に多くの制約がかかり思うとおりにしてはいない。	C	C	読書フェアや読書会等を小規模に実施したが、講演会、ビブリオバトルなどの大きな行事は開催できなかった。広報活動不足のため、貸出冊数は目標を達成できなかった。
		② 「前高ジャーナル」、「進路概況」や「進学の手引」を、80%以上の生徒が役に立つと認識している。	・ これまでの指導のノウハウを継承しながら、さまざまな場面で資料を有効活用する。		A	A	進路に関するLHRは計画に準じて順調に実施されている。生徒も進路選択の参考になっている。	A	B	生徒はLHRにおいて進路に関する刺激を受けている。LHRの振り返りを発信できるとよいかもれない。
		③ 大学・企業・研究所研修、インターシップ等のキャリア教育行事に満足している生徒が80%以上である。	・ 生徒の進路意識・職業意識を高める進路行事を進路指導部・探究部と学年が連携して計画・立案し、実施する。 ・ 生徒の実態に応じて作成する年間指導計画に基づいて実施する。		A	A	刊行物は予定通りに発行完了。特に「進学の手引き」はLHR等でも有効活用されており、生徒も大いに参考にしているだろう。	A	B	保護者に前高ジャーナルが届いていないか印象に残っていないことが心配される。GSNメールで配布の連絡をしたい。
11 生徒は自らの進路希望について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。		① 早期補習や長期休業中の補習授業が、進路希望の実現に役立っていると感じている生徒が80%以上である。	・ 生徒の実態に応じて作成する年間指導計画に基づいて実施する。		B	B	インターシップ等の現場に足運ぶ体験はコロナの影響で実施できていない。医師との交流ができるリモート企画を積極的に紹介している。	B	B	オンラインにより各種の研修を行うことが精一杯だった。キャリアメディカルについてはよい形で実施できた。
		② 夏季休業中の学習合宿に参加した生徒のうち、学習合宿が進路希望の実現に役立っていると感じている生徒が90%以上である。	・ 前年度までの総括をもとに、学習合宿実施の意義に見合った時期・場所・内容等の検討を行う。		A	A	夏期補習Ⅲ期は緊急事態宣言下であったがなんとか実施できた。	A	A	多くの生徒が補習に意義を感じている。保護者は特に補習の実施に好意的である。
		③ 生徒のより高い進路目標の実現を目指し、生徒の大学合格率が80%以上、大学進学率が70%以上である。	・ 納得のいく進路選択ができるよう適切な情報を提供するとともに、同じ志を持つ生徒同士の相互作用をうまく誘導する。		—	—	参加生徒の満足度は極めて高い行事であるが、新型コロナウイルス感染症の影響で今年度も中止した。3年生対象で代替企画として夏期集中学習会を実施した。	—	—	次年度予約済み。実施可能な状況を願う。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 家庭、地域社会に積極的な情報発信をしていますか。	① 「前高Web page」の内容について、満足している保護者が90%以上である。	・ 学校行事等の記事など、新しい情報をタイムリーに発信する。部活動の顧問にWebページの更新を促す。 ・ 行事ごとの記録や、各分掌・学年・部活動の情報収集を行い、年間6号の発刊を行う。		未	未		未	未	(新しい入試に向けて取り組んでいる)
		② 学校通信「前高通信」などによる学校からの情報提供に満足している生徒・保護者が90%以上である。	・ 学校行事等の記事など、新しい情報をタイムリーに発信する。部活動の顧問にWebページの更新を促す。 ・ 行事ごとの記録や、各分掌・学年・部活動の情報収集を行い、年間6号の発刊を行う。		B	B	満足している保護者は83%である。以前より、更新頻度は上がっているが、さらに発信を高めて行きたい。	B	B	満足している保護者は87%であり、若干向上した。定期的に保護者に見てもらえるよう工夫したい。
13 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	14 生徒の安全意識向上の取り組みを行っていますか。	① 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年に2回以上実施している。	・ PTA・母の会等との連携を密にして、講師の選定を行う。PTA新聞作成に当たり、保護者役員の制作活動や情報収集をサポートする。		A	A	各学年が「学年通信」の発行に力を入れてくれていることもあり、保護者・生徒ともに満足度は90%に達している。	A	A	各学年とも「学年通信」の発行に工夫をこらしている。「前高通信」の発刊数も目標に届くようにしたい。
		② 規範意識と危険回避能力を高める指導を行い、自転車事故15件以下を目指して指導する。	・ 交通法規やマナーの徹底に加え、余裕を持った早期登校や、大通りを利用したの通学など、事故に遭いにくい通学を促す。		B	B	PTA主催の行事がオンライン開催となり、講演会もオンライン配信となっている。PTA新聞は様々な制約があるなか、発行できた。	B	B	多くの行事がオンライン開催となった中でも、本校同窓会から講師を迎えることができた。
		③ 安心・安全な自転車利用のためには、自転車保険の加入やヘルメット着用が必要であると自覚している生徒が90%以上である。	・ 交通安全教室の形態・指導内容等を前橋高校の現状に合ったものになるように工夫すると共に生徒会役員や風紀委員会を中心に自発的活動を促す。		B	A	交通安全教室や下校指導を行い、被害者・加害者にならない取組を行うことができた。また、合法的右側通行の危険性について指導して自発的なヘルメット着用に向け、駐輪場での声かけ指導を行うと共に、自転車ヘルメットの重要性を理解する取組を生徒会本部役員と連携して行う。	B	A	交通安全の取り組みに対して評価している生徒が93%である。自転車事故減少に向け指導を行っていく。
15 環境面で生徒の安全が確保されていますか。		① 災害発生時に適切な行動をとることができる生徒が90%以上である。	・ 毎月安全点検を実施し、施設的に問題の改善に努める。 ・ 他分掌と連携し、水害時の緊急時使用マニュアルを周知する。 ・ 年2回の防災避難訓練の実施と、浸水時を含めた防災マニュアルの周知により、災害発生時に職員・生徒が適切な対応ができるようにする。		A	A	自発的なヘルメット着用に向け、駐輪場での声かけ指導を行うと共に、自転車ヘルメットの重要性を理解する取組を生徒会本部役員と連携して行う。	B	A	ヘルメット着用について1年78.5%、2年21.5%、3年7.0%であり、自発的なヘルメット着用に向けた取り組みを行っていく。
		② 災害発生時に適切な行動をとることができる生徒が90%以上である。	・ 毎月安全点検を実施し、施設的に問題の改善に努める。 ・ 他分掌と連携し、水害時の緊急時使用マニュアルを周知する。 ・ 年2回の防災避難訓練の実施と、浸水時を含めた防災マニュアルの周知により、災害発生時に職員・生徒が適切な対応ができるようにする。		A	A	第1回の防災訓練の中で火災時の対応を行い、生徒は速やかな避難行動ができ、防災意識も高くなってきている。また、洪水時の水害など様々な状況に応じた行動についても意識できている。	A	A	災害時における自分がなすべき行動について、マイタイムラインなどの考え方の紹介を行い、さらに生徒の防災意識を高めていきたい。また、コロナウイルス感染防止対策も行いながら、防災に対する環境の整備もさらに深めていきたい。
VI 学校における生徒の健康・安全に努めていますか。	16 保健面で生徒の健康が確保されていますか。	① 健康面で安心感があると、80%以上の生徒が回答している。	・ 保健委員会活動(保健だより等)により、感染症・健康に関する情報を発信する。 ・ 感染症対策として、消毒用エタノールボトルや手洗い用石鹸等を常時用意する。		A	A	保健だより等を利用し、新型コロナウイルス感染防止対策として、マスクの着用の徹底や石けんによる手洗い、消毒、三密回避を呼びかけ、生徒も実践できてきている。	A	A	生徒の85%が、健康面で安心感があると回答している。保健だよりや登校時の玄関での呼びかけを継続し感染防止の意識を高めているが、さらに感染防止の環境整備や意識を高めるよう努める。
VII 教育のデジタル化に努めていますか。	17 ICTを活用した指導を行っていますか。	① 授業等でICTを活用した指導を行っている教員が80%以上である。	・ ICTを活用した新たな教材や学習活動を積極的に取り入れる。 ・ ICTの効果的な活用に関する校内研修を行う。		A	A	目標の80%には達している。今後も活用事例の紹介や研修を行う。	B	B	74%で第1回の評価から少し低下した。年間を通して、効果的に活用したい。
	18 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	① ICTを活用することで、分掌業務等の改善を進めている教員が80%以上である。	・ 各種調査や連絡等でgoogle classroomなどの利用を図る。 ・ 資料や情報の蓄積をデジタルデータ化する。		A	A	84%に達している。働き方改革に資するようにさらに活用を進めたい。	A	A	アンケート等でgoogleフォームを利用するなど、少しずつ改善が進められている。